

ろくおん 通信

2024年10月1日発行

発行 日本ライトハウス情報文化センター

録音製作係

発行責任者 久保田 文

電話 06-6441-1017

FAX 06-6441-1027

<https://www.lighthouse.or.jp/iccb/>

No.264

今号の内容

- ◎ 「調査」について ～調査結果は必ず共有しましょう～ …… 1ページ
- ◎ わかる 使える 広がる！ デイジー図書徹底解説（第46回） …… 4ページ
「グループ（グループチェック）って何？」
- ◎ 新規デイジー編集者の募集・養成を行います …… 7ページ

「調査」について ～調査結果は必ず共有しましょう～

録音製作係 内藤流津

正確で質の高い録音図書を作れるかどうかは、調査にかかっているといっても過言ではありません。そして、複数人で録音図書を製作する場合、調査の結果を共有することは非常に重要です。当館では調査結果の共有のために、音訳者には「下調べ票（下調べ表）」（以降、下調べ票と記載）の送信・提出をお願いしています。

しかし最近、音訳者から「下調べ票に何をどこまで書いたら良いのかわからない…」という声がよく聞かれるようになりました。

そこで今号では、下調べ票に「記載したい項目」と「取捨選択して記載する項目」に分けて、調査のポイントをおさらいしたいと思います。

※ 以下、音訳者の立場から記載していますが、校正者・編集者もポイントは同じです。

※ 調査のポイントの記載に当たっては「音訳ボランティア養成講習会テキスト 基礎課程編（全国視覚障害者情報提供施設協会）」を参照しました。

[下調べ票に記載したい項目]

① 人物名

著者・執筆者、著名人、映画やドラマの役名、歴史上の人物…1冊の図書には様々な人物が登場します。著名人や歴史上の有名な人物は調査をしないこともあるかもしれませんが、

意外と勘違いや覚え間違いが多いものです。知っている人物であっても、確認の意味を込めて辞書を引く（調査する）ことをお勧めします。

また、するっと読んでしまいがちですが、やさしい漢字が使われている人物名も注意が必要です。例えば「羽生」さんは「はぶ」と「はにゅう」など、同じ漢字表記でも複数の読み方を持つ場合があります。誤読によって別の人物になってしまった…ということがないように、人物名は必ず調べるようにしましょう。

ただし、一般人や実在しない人物の名前は調査がつかないことも多々あります。調べても分からない時は「日本姓名よみふり辞典」（日外アソシエーツ）を参考に推測読みをしてください（辞典の引き方はろくおん通信 No. 232を参照）。辞典を確認することができない場合は、インターネットでの調査結果を参考に読み方を決めいただいて構いません。

なお、架空の人物が登場する小説などでは、本文中にルビが振られている場合があります。本文の最初とは限らず、途中や終わりの方に振られていることもありますので、録音の前には図書全体に目を通し、ルビの有無を確認しておくとう安心です。

そして、人物名の調査結果は必ず共有をお願いします。出典を添えて、下調べ票に記入するようにしてください。推測読みの場合も“推測読み”と記入します。「日本姓名よみふり辞典」を使用した場合は出典として記載しましょう。

② 地名

難読地名（大阪の枚方や放出は有名な難読地名ですね）の他、聞き馴染みのある地名でも、必ず調べるようにしましょう。また、同じ表記でも地域によって読み方が違うケースがあります。“日本橋”（東京都と大阪府），“柏原”（大阪府、京都府、滋賀県、兵庫県）など、誤読をすると別の都道府県になってしまう…なんてことがありますので注意が必要です。

さらに、「町」は「まち」・「ちょう」、「村」は「むら」・「そん」と地名によって読み方が変わります。最後の1字まで気を抜かずに調べるようにしてください。（山や河川、橋の名称も、「～やま」・「～さん」、「～かわ」「～がわ」、「～はし」・「～ばし」と複数の読みがあるので要注意です！）

地名も人物名と同じく、調査後は出典を明記の上、下調べ票に記載してください。自分にとっては馴染みのある地名でも、他の作業者も知っているとは限りません。地名は必ず調べていただきたい項目ですので、作業の重複を避けるためにも調査結果を共有してください。

③ 専門用語・業界用語

東洋・西洋の医学用語、IT用語、茶道・華道用語、宗教関係の用語など、普段聞き馴染みのない用語が頻繁に出てきます。特に専門用語や業界用語は表記通り読まないものもあり

ます（例 P2P（IT用語）：ピア・ツー・ピア）。調査をしたものは共有しておく方が良いでしょう。

④ その他の固有名詞

会社名や出版社名など、①～③以外の固有名詞も読みの調査が必要です。また、人名・地名のように、同じ表記でも読みが異なるものが数多くあります。例えば「日本」という漢字。

全日本〇〇大会や日本△△協会など、頻繁に使われていますが、「にほん」と読むか「にっぽん」と読むかはそれぞれに異なります（当館は「にっぽん」ライトハウス情報文化センターです）。思い込みで進めず、必ず調査を行い、結果を共有してください。

なお、辞書に載っていない語句、特に固有名詞はインターネットを使用することが多くなります。インターネットでの調査は最新の情報に素早くアクセスできるというメリットがある一方、個人が作成しているページなど、情報の出典があいまいであることも少なくありません。公式のサイトを参照するなど、正確な情報を採用できるようにしましょう。

公式サイト以外を出典とする場合には、1つのサイトだけでなく、複数のサイトで確認するなど、情報の確度を上げる工夫をしてください。

最近では youtube などの動画サイトで調査を行うケースも増えてきました。動画で調べる際も、出来る限り公式の動画を参照するようにしましょう。

[下調べ票への記載を取捨選択する項目]

① アクセント

「アクセントはどこまで下調べ票に記載するのか」というご質問を多くいただきます。アクセントは一冊の音訳中に何度も何度も調べるかと思いますが、一般的な語句（動詞の活用なども含む）は、下調べ票に記載しなくても構いません。ただし、固有名詞のアクセントは、校正者・編集者も迷うケースが多いようです。音訳者が参照した資料やサイト（動画サイトを含む）があれば、下調べ票を通して共有していただくと良いと思います。

少し話が逸れますが、録音図書の原則は標準語アクセントで読むことです。しかし前号でも書いた通り、修正箇所が多い場合には「意味が変わってしまうアクセント」に絞って指摘するというケースがあります。そのため、最初の録音の時点で正しいアクセントで読むことは大変重要です。下調べ票には必ずしも記載する必要はありませんが、下読みの段階でアクセントの調査をしっかりと行い、録音に臨んでください。

下調べ票については「こんなことも知らなかったのかと言われそう…」と記載を躊躇する声も良く聞かれます。ですが調査結果を共有していないと、校正者・編集者は「調べた結果

の読みかどうか」の判断がつかず、たとえ音訳者が調べていたとしても、調査を行う必要が生じます。二度手間、三度手間となり、結果、図書完成の遅れにも繋がりがねません。

音訳の際には、必ず記載をお願いいたします。

なお、当館で使用しているウェブスタジオ・なにわの下調べ票機能は、校正者・編集者も書き込むことができます（下図のように、どの作業者が書き込んだのかが色でわかるようになっています）。音訳者1人では調査がつかないことも、複数の方が、それぞれの視点で調査をすると解決する可能性が高くなります。新たに調査した内容があれば積極的に追記してください。

図：ウェブスタジオ・なにわの下調べ票画面

下調べ票に書き込んだ内容は、音訳者は黒色、校正者は緑色、編集者は青色、係は赤色で表示されます。

書名		よいこのおんやく はじめてのえほん				
音訳者		音訳 花子	下調べ者	編集 良子	管理者 「録音製作係」	
頁	行	原本語句	読み		出典	状態
1	1	下調べ票テスト（音訳者・黒字）	音訳者の記載は黒色で表示されます。			調査依頼
1	2	下調べ票テスト（校正者・緑字）	校正者も記載できます。表示は緑色です。			調査結果
1	3	下調べ票テスト（編集者・青字）	編集者も書き込めます。表示は青色です。			調査結果
1	4	下調べ票テスト（録音製作係・赤字）	係が書き込むこともあります。表示は赤色です。			調査結果



わかる 使える 広がる！ デイジー図書徹底解説（第46回）

このコーナーでは、図書の特徴に合ったデイジー校正のポイントをQ&A形式で紹介しています。今回のテーマは、「グループ（グループチェック）って何？」です。どのように利用されているのか？を知ることで、より納得して、音訳・校正・編集作業ができるようになります。

グループ（グループチェック）とは？

Q1. 当館の『デイジー図書録音の順序』2ページ、「デイジー図書凡例の例」として、「図（表・写真）のはじめと終わりをグループで区切っています」とありますが、「グループで区切る」というイメージが湧きません・・・（音訳者・校正者より）

A1. デイジー図書では、図や表、写真のキャプションと音訳者の説明文を1つのかたまり（グループ）として考えます。そのかたまり（グループ）のはじめと終わりに印をつけることを、「グループで区切る」と言います。

「グループの印をつける」というイメージですが、デイジー編集者の多くは、この作業を「グループチェックする」とか、「グループチェックをつける」「グループをつける」と言っています。グループチェックは、本文中の小項目や、各文献、各参考図書などのはじめのフレーズにだけつけることもあります。

【例：グループの印をつける…図のはじめと終わりのフレーズにつける場合】

以下、二重下線を引いているフレーズがグループチェックをつけるフレーズです。

- ◇ 以下の例は、原本に書かれている図の説明文を「キャプション」としてしています。
- ◇ 図が3枚以上ある場合は、図2枚のケースに準じます。
- ◇ 複数枚の図を同じ場所で読むケースでは、図のタイトルやキャプションの記載方法（読み方）によって変わります。

1. 図が1枚の場合：○ページ図 図終わり

2. 2枚の図を同じ場所で読むケースで、それぞれにタイトル、キャプションがある場合：

○ページ図2枚 図1 図2 図終わり

3. 図が2枚あるが、1つの図として読む場合

（2枚の図に対してタイトルやキャプションが1つしかないケースなど）

○ページ図

説明 2枚の図があります。図1（一方）は～…、図2（もう一方）は～

図終わり

※ この場合、「○ページ図2枚」とは読みません。

※ 音訳者の説明文の中で、図が2枚あることを説明しますが、それぞれの図のはじめにはグループの印はつけません。

※ それぞれの図にグループチェックをつけたい場合は、音訳者の説明文の中で、図が2枚あることと、それぞれの図にグループで移動できることをコメントします。

例：○ページ図

説明 2枚の図があります。それぞれの図にグループで移動できます。

図1（一方）は～ 図2（もう一方）は～…

図終わり

Q2. 実際、利用者さんはどのように使われているのですか？（音訳者・校正者より）

A 2. デイジー図書再生機には、グループの印が付いているフレーズに移動して聞くことのできる便利な機能があります。以下のような使い方が考えられます。

- ① 図（表・写真）を聞き終えた後、もう一度、図（表・写真）のはじまりのフレーズに移動して、繰り返し聞く
- ② 図（表・写真）を飛ばして本文だけを聞いていき、後から戻って聞く
- ③ 小項目や文献、参考図書など、はじめのフレーズにだけグループがついている場合、その項目や図書ごとに移動して聞く

グループチェックの使用箇所と必要なコメントについて

Q 3 - 1. どんなところにグループチェックを付けると使いやすいのでしょうか？また、グループチェックのコメントにはどんなものがありますか？

（音訳者・デイジー編集者・デイジー校正者から）

A 3 - 1. グループチェックの機能は便利なものですが、多すぎると使いにくくなる場合もあります。編集者はQ 2を参考に、グループチェックが必要かどうか？グループチェックをつけることで使いやすくなるか？（移動しやすくなるかどうか？）をよく検討し、使用する箇所を決めていきましょう。

なお、グループチェックが多いほど、チェック漏れが起こりやすくなります。編集後はチェック漏れがないかどうかを慎重に確かめてください。

【グループチェックをすると便利なケースとそのコメント例】

◆ はじめと終わりのフレーズにグループチェックをつけるケース

- ① 図・表・写真・イラストなど：

「図（表・写真・イラスト）のはじめと終わりをグループで区切っています。」

※ その他にも、「注」や「囲み」「ポイント」「まとめ」などのはじめと終わりにグループチェックをつけることもあります。

◆ はじめのフレーズにのみグループチェックをつけるケース

- ① セクション分けしない小項目：「（各）小項目にグループで移動できます。」
- ② レシピ本の材料や作り方などの各項目：「材料、作り方へはグループで移動できます。」
- ③ 索引：「あ行、か行などにはグループで移動できます。」
- ④ 商品や店舗などの紹介：「各商品（各店舗）にはグループで移動できます。」
- ⑤ 年表：「各年代へはグループで移動できます。」
- ⑥ 文献や参考図書：「各文献（図書）へはグループで移動できます。」

※ その他、必要に応じて、「初出一覧」「索引の各項目」のはじめのフレーズにグループチェックを付けることもあります。

Q3 - 2. グループチェックを使用する際のコメントはどこに読み込めば良いのでしょうか。(音訳者・デイジー編集者・デイジー校正者より)

A3 - 2. グループチェックをつけた際は、どのようにグループチェックを使用しているのかをお知らせ(コメント)する必要があります。

録音図書の中で広範囲にグループチェックを使用している場合は「デイジー図書凡例」で、限定的に使用している場合は、「該当箇所」でコメントしてください。

◆ 「デイジー図書凡例」でコメントするケース：

- ① 図(表・写真)のはじめと終わりにグループチェックを使用している場合
- ② セクション分けしない小項目の先頭フレーズにグループチェックを使用している場合
※ ただし、一部の章(節・項)の小項目にのみグループチェックを使用している場合は、「該当箇所」(章(節・項))の冒頭でコメントする場合があります。
→ コメント例：「この章(節・項)の小項目にグループで移動できます」
- ③ レシピ本の材料や作り方などの各項目 など

◆ 「該当箇所」でコメントするケース：

索引・年表・参考文献にグループを使用している場合など



新規デイジー編集者の募集・養成を行います

ここ数年、デイジー編集をお引き受けいただける方が減ってしまい、さらに新規デイジー編集者(以下、編集者)の養成も出来ていなかったことから、編集待ちのタイトルが常時30以上ある状態が続いています。音訳終了後、編集開始までに2～3か月かかることも増え、図書完成の遅れにも繋がっている状況です。なんとか状況を改善すべく、段階的に新規編集者の募集・養成を行うことにいたしました。

まず第1段階として、以下の経験がすでにある方を対象に、新規編集者を募集いたします。

- ・他の音訳グループで編集の経験がある方
- ・当センターで発行している雑誌の編集経験がある方
- ・以前に編集をしていた(または編集のレクチャーを受けた)が、作業から遠ざかってしまった方

など、当館で蔵書の音訳経験があり、少しでも編集の経験がある方は係までお声がけください。作業のレクチャー方法や期間(日時)につきましては、ご経験にあわせて個別に決めていきます。

第2段階は今冬に予定しており、こちらは編集未経験の方を対象に募集いたします。詳細が決まり次第ご案内いたしますので、続報をお待ちください。



館からのお知らせ

★ 編集者様・デイジー校正者様へ：目次のページ付けについて

2024年10月より、目次にも原本通りのページ付けをお願いいたします。

「デイジー図書録音の順序 2023年10月版」より、目次は原則、原本通りの位置に録音することにいたしました。これに伴い、目次へのページ付けが可能となりましたので、上記の通り編集のルールを変更（追加）いたします。

「最終チェック/ブックトラック待ちのものを除く、現在製作中の図書全て」を変更の対象といたします。

- ・編集者様：現在作業中の図書（最終チェック/ブックトラック提出済みは除く）は全て変更をお願いいたします。
- ・デイジー校正者様：現在作業中の図書から適用となります。目次のページ付けが無い場合は、校正表への記載をお願いいたします。

なお、こちらは編集のみの変更事項です。音訳はこれまで通り変更ありませんので、ご注意ください（ページアナウンスは不要です）。

★ 10～11月の休館について（休室のお知らせ）

10月12日（土）：（月：スポーツの日）の振替

11月 2日（土）：（月：振替休日）の振替

11月23日（土）：勤労感謝の日

★ 「Zoomでなんでも相談」10～12月の開催予定

以下の日の14～16時に開催予定です（16時以前に終了する可能性あり）。

10月17日（木）、18日（金）

30日（水）、31日（木）、11月1日（金）

11月13日（水）、14日（木）、15日（金）

27日（水）、28日（木）、29日（金）

12月11日（水）、12日（木）、13日（金）

25日（水）、26日（木）